作成日 2000 年 3 月 16 日

改訂日 2016 年 8 月 10 日

安全データシート

1.化学品及び会社情報

製品名　グリシン

会社名　扶桑化学工業株式会社

住所　大阪市中央区高麗橋４丁目３番１０号

担当部門　ライフサイエンス事業部

電話番号　06-6203-0052　FAX 番号　06-6203-0094

緊急連絡先　同上

整理番号　00Q653-G

2.危険有害性の分類

危険有害化学物質等の分類　分類基準に該当しない

化学物質排出把握管理促進法及び労働安全衛生法の危険有害性分類基準による分類対象外であり、GHS 分類は記載省略。

3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　：化学物質

化学名　：グリシン(Glycine), アミノ酢酸

成分及び含有量　：98.5%以上

化学式又は構造式　：H_2NCH_2COOH　（$C_2H_5NO_2$）

官報公示整理番号　：(9)－77

CAS 番号　：56－40－6

4.応急処置

眼に入った場合　：直ちに清浄な水で15分ほど眼を洗浄した後、眼科医の手当を受ける。洗眼の際に、瞼を指でよく開いて、瞼、眼球のすみずみまで水がよくいきわたるように洗う。

皮膚に付着した場合　：触れた部分を水または微温湯を流しながら、石鹸を使ってよく洗い落とす。外観に変化が見られたり、痛みが続く時は直ちに医療処置を受ける。

吸入した場合　：被災害者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させる。呼吸が止まっている場合、又は呼吸が弱い場合には衣類をゆるめ、呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。体を毛布等でおおい保温して安静を保ち、直ちに医療処置を受ける。

飲み込んだ場合　：水で口中をよく洗う。可能であれば、指をのどに差し込んで吐き出させ、直ちに医療処置を受ける。

5.火災時の処置

消火方法

：燃焼により窒素酸化物（NOx）を生成する。
不完全燃焼により一酸化炭素を生成する事がある。

：初期消火には粉末、二酸化炭素消火器を用いる。大規模火

災には泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。消火作業は風上から行い、場合によっては呼吸保護具を使用する。周辺火災の場合には、周辺の設備などに散水して冷却する。移動可能な可燃物容器等は速やかに安全な場所に移す。

消火剤 :粉末・炭酸ガス・泡・水スプレー

6.漏出時の処置 :床面などにこぼれた場合には直ちに拭き取り、乾燥した蓋付容器に収納する。 作業の際には、粉塵を立てないように注意し、漏洩箇所の換気を良くし水洗する。 作業は風上から行い、粉塵を直接吸引しないように注意する。 必要に応じて保護具を使用する。

7.取扱い及び保管上の注意

取扱い :吸入したり、眼や皮膚に触れないように適切な保護具を着用する。作業場所には局所排気装置を設けるなどにより、粉塵を滞留させない。作業終了後、身体・手・口・目・顔をよく洗う。この物質が付着した衣服等は、再着用する前に洗濯をする。

:塩素系の溶剤や塩素系を含んだものを混ぜると有害なガスが発生する恐れがあるので、絶対に混合しない。

保管 :適当な換気のある乾燥した暗所に密封して貯蔵する。

8.暴露防止処置

設備対策 :密閉された装置・機械または局所排気装置を使用する。取り扱い場所の近くに洗眼および身体洗浄の設備を設ける。

保護具 呼吸用保護具 :防塵マスク、粉塵が多い場合は送気マスク、空気呼吸器

保護眼鏡 :保護眼鏡又は防災面

保護手袋 :ゴム手袋

保護衣 :長靴、前掛け

9.物理・化学的性質

外観等 :白色結晶又は結晶性粉末

水溶解度 :14.18%(w/w 0℃)、22.52%(w/w 20℃)、25%(w/w 25℃)、33.15%(w/w 40℃)、45.26%(w/w 60℃)、67.17%(w/w 100℃)、

その他溶解度 :アルコール 微溶

10.危険性情報(安定性・反応性)

安定性 :通常の保管条件では化学的に安定。

粉塵爆発性 :高濃度の粉塵が発生した場合には粉塵爆発の可能性がある。

11.有害性情報(人についての症例、疫学的情報を含む)

RTECS MB7600000 より

カエル	(リンパ嚢)	LD50	1.2mg N/g
ニワトリ	(腹腔)	LD50	43.2μmol/g
ラット	(経口)	LD50	7930mg/kg
マウス	(経口)	LD50	4920mg/kg
ラット	(皮下注)	LD50	5200mg/kg
マウス	(皮下注)	LD50	5060mg/kg
マウス	(腹腔)	LD50	4450mg/kg
ラット	(静脈注)	LD50	2600mg/kg
マウス	(静脈注)	LD50	2370mg/kg
ネコ	(静脈注)	LDLo	3000mg/kg

12.環境影響情報 :知見無し

13.廃棄上の注意 :水で希釈後、活性汚泥等の処理により清浄にしてから排出する。又は炉にて少量ずつ焼却する。
脱硝設備のある焼却炉を使用すること。

14.輸送上の注意 :容器(主として紙袋)が破損しないように、水漏れや乱暴な取り扱いを避ける。

15.適用法令 :食品衛生法

16.その他
引用文献

1)食品添加物便覧 食品と化学社
2)13700 の化学商品 化学工業日報社
3)RTECS(2010 年 7 月) MB7600000

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等を良く検討されるか、試験によって確かめられることをお薦めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合はこの点にご配慮をお願いします。